



# 中島根

令和5年4月28日  
足立区立中島根小学校  
校長 細川 靖雄  
令和5年度5月号

## 会話から広がる

校長 細川 靖雄

分からないことがあった時に、どうされていますか。「後でいいかな。」「まあ、いいかな。」などと思って、やり過ぎしてしまうことはないでしょうか。大人になると、なかなかすぐに行動しなくなっていると思いませんか。

小さかったころは、「ねえ、どうして?」と、そばにいる大人や家族に尋ねていたと思います。自分が知りたいことや気になったことに対しての興味事や関心事について、自分なりにこだわり考え続けていたと思います。

ある日、3年生の私は、近所に住んでいる1年生の子から、あるゲームと一緒にしようと誘われました。初めてするゲームでした。そのゲームのルールの一部を紹介すると、次のようになります。

- ・ゲームに使う道具を20個ずつに分ける。
- ・その20個は、表面（おもてめん）の時に8種類に分けられる。
- ・表面の8種類にはそれぞれの動き方がある。
- ・そして、裏面の時もあり、その動き方は表面の時とは異なる。
- ・相手の20個の道具を取った数で勝ち負けが決まるのではない。
- ・唯一この1種類を取られた方が負けとなる。

当然のことですが、その日、その子には一度も勝つことはできませんでした。

その日の夕食時、その子と遊んだゲームのことを話しました。いつもならば、さっさと食べ終わり、自分の好きなことをしているはずでした。自分でも不思議なことでしたが、その話は収まりませんでした。家族も驚いたことだと思います。

数日後、家で同じような道具とそのゲーム入門の本を目にしました。それを手にして歓喜しました。そして、すぐに父に勝負を挑みました。それも、毎日、毎日です。父が帰宅するまでは、その本を手にしながら自分一人で取り組んでいました。ちなみに、そのゲームとは将棋のことです。今でも、帰省した際には、父と将棋をしながら会話を楽しんでいます。

子どもの時期には、何がきっかけとなり自分自身のやり続けてみたいことに会うのかは分からないものです。その知りたい、分かってほしい、上手になりたいという願いを少しでも手助けすることができるのなら、その周りの大人はその環境を少しでも整えていきたいという思いが湧き出てくるものです。

ゴールデンウィークや週末等で、お子さんとお話をする機会が増えてくる時期だと思います。お子さんの話し方、話の調子、話している様子などから、知りたい分かってほしいという思いをくみ取っていくことで、これから続けていけそうなことや調べて知識を増やしていきたいことを伸ばしてことにつなげることができると思います。知らない事柄をそのままにしておくのは、もったいないです。